

MGC

2025年度 第1四半期
決算説明資料

 三菱ガス化学株式会社
2025年8月7日

証券コード
4182



● 2025年度 第1四半期実績

BT材料の販売は、需要回復により好調を維持したものの、メタノールやポリカーボネート(PC)等、一部製品における市況下落・需要低迷により採算が悪化したことに加え、為替が円高で推移したこと等により、**対前年同期比で減収減益**

● 2025年度 業績予想

- ・ 足下の状況を踏まえ、**未経過月の為替を円安方向に見直し**(1ドル140円⇒145円)
- ・ 米国関税政策については、日本への相互関税15%を考慮しても、**直接的影響は軽微**と想定。
業績予想には、**直接・間接影響とも現時点で見通せる内容を反映**
- ・ BT材料の需要は引き続き堅調に推移すると見込まれる一方、PC、メタキシレンジアミン(MXDA)等での需要低迷・採算悪化が懸念される

上記を踏まえ、**下期予想・通期予想について、連結売上高を上方修正(+200億円)し、各段階利益は、前回予想(2025年5月発表)を据え置き**とした

(※上期予想に関しては、全ての項目で据え置き)

1点目ですが、2025年度 第1四半期実績につきましては、対前年同期比で減収減益となりました。

BT材料の販売は、需要回復に加えて顧客での在庫形成の動き等が相まって好調に推移しましたが、メタノールやポリカーボネート(PC)等、一部製品における市況下落や需要低迷により採算が悪化したことに加え、為替が円高で推移したこと等が減収減益の要因となりました。

2点目の 2025年度 業績予想についてですが、

・ 足下の状況を踏まえ、未経過月の為替を円安方向に見直しました。ドル/円では140円から145円、5円の見直しを行っております。

・ 米国関税政策については、日本への相互関税15%を考慮しましても、直接的影響は軽微と想定しており、業績予想には、直接・間接影響とも現時点で見通せる内容を反映しております。

・ 個別事業についてはこの後ご説明してまいります。全体を通して申し上げたいことは、BT材料の需要は引き続き堅調に推移すると見込まれる一方、PC、メタキシレンジアミン(MXDA)等での需要低迷・採算悪化が懸念されます。

上記を踏まえ、下期予想・通期予想について、連結売上高を200億円上方修正し、各段階利益は、前回予想、2025年5月発表を据え置きといたしました。なお、上期予想につきましては全ての項目で前回予想から据え置きとしております。これらの詳細については後ほど説明させていただきます。

1 | 2025年度 第1四半期実績 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 2025年度 業績予想

1 | 2025年度 第1四半期実績 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 2025年度 業績予想

2025年度 第1四半期 業績サマリー



- 売上高: 電子材料の販売数量増加が増収要因となったが、円高に加え、メタノール市況の下落、オルソキシレン(OX)チェーンからの事業撤退等により減収
- 営業利益: PC、無機化学品、MXDA等の損益悪化や円高等により減益
- 経常利益: 為替差益等によりメタノール事業の持分法損益は改善したものの、営業利益の減少により減益

単位: 億円	2024年度 1Q	2025年度 1Q	増減	
			金額	%
売上高	1,881	1,779	▲101	▲5.4
営業利益	157	109	▲47	▲30.2
持分法利益	12	23	+11	+91.0
経常利益	179	138	▲41	▲23.0
親会社株主に帰属する四半期純利益	117	84	▲33	▲28.4
一株当たり四半期純利益(円/株)	58.60	43.17		
為替レート(JPY/USD)	156	145		

※ 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

5ページをご覧ください。

2025年度第1四半期業績のサマリーを示しております。

対前年同期の差異要因について、ご説明いたします。

売上高は、電子材料の販売数量増加が増収要因となりましたが、円高に加え、メタノール市況の下落、オルソキシレン(OX)チェーンからの事業撤退等により、101億円減収の1,779億円となりました。

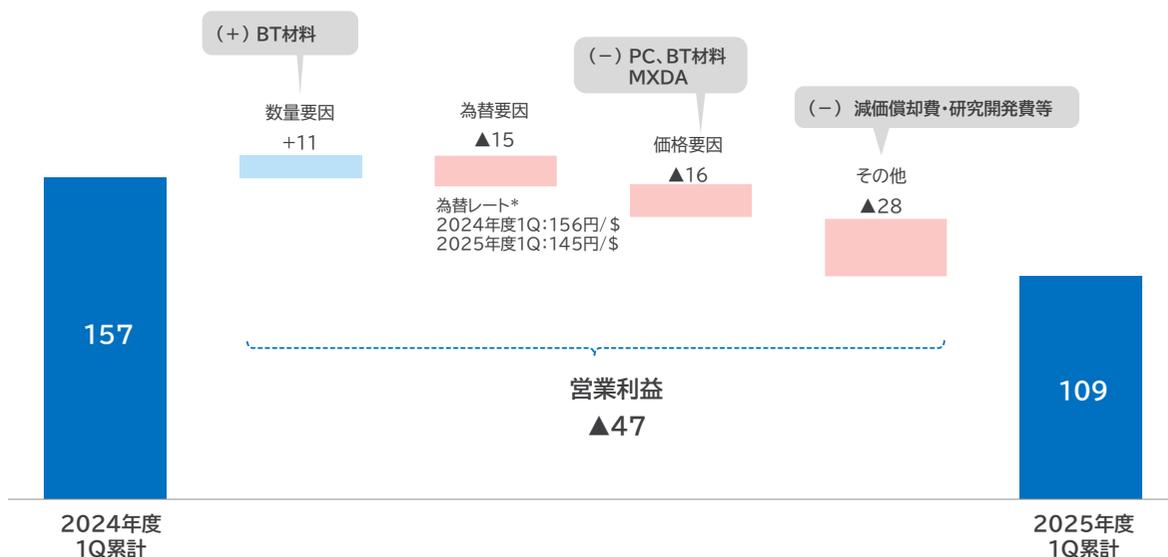
営業利益は、ポリカーボネート(PC)、無機化学品、メタキシレンジアミン(MXDA)等の損益悪化や円高などにより、47億円減益の109億円となりました。

経常利益は、為替差益等によりメタノール事業の持分法損益は改善したものの、営業利益の減少により41億円減益の138億円となりました。

2025年度 第1四半期 営業利益 増減要因(前年度比)



(単位:億円)



* 為替感応度 (USD概算):1円の円高(円安)で、営業利益5億円/年、経常利益5億円/年の減益(増益)
(EUR概算):1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)

6ページは当第1四半期の営業利益の増減要因を前年同期との比較で示しております。

数量要因は、BT材料の販売数量が増加したことなどにより11億円のプラスとなりました。

為替要因は、円高の進行によって15億円のマイナスとなりました。

価格要因は、PCやMXDAの販売価格下落、BT材料の品質対応強化に伴うコスト増加などにより、16億円のマイナスとなりました。

その他の要因として、減価償却費、研究開発費、その他固定費の増加などにより28億円のマイナスとなりました。

1 | 2025年度 第1四半期実績 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 2025年度 業績予想

続いて、セグメント別業績概要をご説明します。

2025年度1Q実績

売上高:

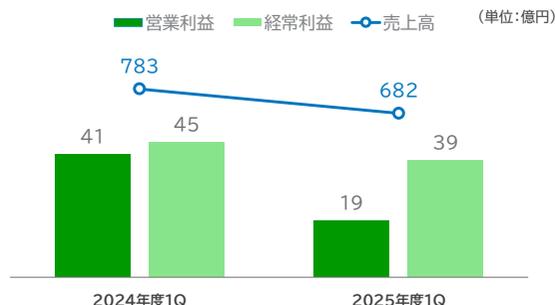
メタノール市況の下落やOXチェーンからの事業撤退等により減収

営業利益:

メタノールやMXDAおよび誘導品での損益悪化、円高等により減益

経常利益:

為替差益等により海外メタノール生産会社の持分法損益は改善したものの、営業利益の減少により減益



【営業利益差異要因】



8ページ、グリーン・エネルギー&ケミカル事業、以下GECと呼称させていただきますが、そちらについてご説明します。

売上高は、メタノール市況の下落やOXチェーンからの事業撤退等により減収となりました。

営業利益は、メタノールやMXDAおよび誘導品等での損益悪化、円高等により、減益となりました。

経常利益は、円高等により海外メタノール生産会社の持分法損益は改善したものの、営業利益の減少により、減益となりました。

下段には、GECにおける当第1四半期の営業利益の増減要因を、前年同期との比較で示しております。後ほどご参照願います。

単位:億円	2024年度 1Q実績	2025年度 1Q実績	増減
売上高	783	682	▲ 101
天然ガス系化学品	565	498	▲ 66
芳香族化学品	220	185	▲ 35
調整	▲2	▲1	+ 1
営業利益	41	19	▲ 21
天然ガス系化学品	27	12	▲ 14
芳香族化学品	13	6	▲ 6
調整	0	0	▲ 0
経常利益	45	39	▲ 6
天然ガス系化学品	26	30	+ 3
芳香族化学品	17	8	▲ 9
調整	0	0	▲ 0

※ 内訳は、主要製品群別セグメントを記載

		2025年度1Q実績 (2024年度1Q実績比)	
天然ガス系化学品	メタノール	🔴	メタノール市況の下落により減収減益 (前期337 ^{ドル} /MT→今期314 ^{ドル} /MT)
	メタノール・アンモニア系化学品	🟡	販売数量は増加したものの、アンモニアおよびMMA市況の下落、円高等により前期並みの損益
	エネルギー資源・環境事業	🟢	発電用 LNG の販売数量減少が減収要因となったが、ヨウ素の販売数量増加等により増益
芳香族化学品	MXDA*、芳香族アルデヒド、ポリマー材料 <small>* 誘導品含む</small>	🔴	芳香族アルデヒドは堅調に推移したものの、MXDAおよび誘導品は、欧米・中国向けの需要低迷と固定費増等により減収減益
	キシレン分離/誘導品	🟢	高純度イソフタル酸(PIA)は市況下落により減益となったが、OXチェーン事業撤退に伴う固定費改善等により増益

9ページでは、GECの業績動向を、主要事業別に示しております。

2025年度第1四半期実績について

メタノールは、メタノール市況が前期337^{ドル}/MTに対して今期314^{ドル}/MTに下落したことにより減収減益となりました。

メタノール・アンモニア系化学品は、販売数量は増加したものの、アンモニアおよびMMA市況などの下落、円高等により前期並みの損益となりました。

エネルギー資源・環境事業は、発電用 LNG の販売数量減少が減収要因となりましたが、ヨウ素の販売数量増加等により増益となっております。

メタキシレンジアミンならびに芳香族アルデヒドは、芳香族アルデヒドは堅調に推移したものの、メタキシレンジアミンおよび誘導品が、欧米・中国向けの需要低迷と固定費増等により減収減益となりました。

機能化学品



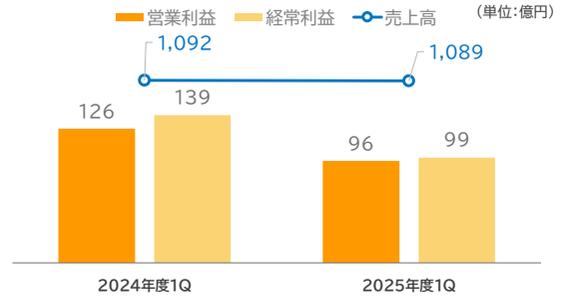
2025年度1Q実績

売上高:

BT材料等、電子材料の販売数量増加が増収要因となったが、PCの販売価格下落や円高により相殺され、前年同期並み

営業利益:

PCの販売価格下落、無機化学品の固定費の増加、BT材料での品質対応強化に伴うコスト増加に加え、円高等により減益



【営業利益差異要因】



続いて10ページ、機能化学品事業についてご説明します。

売上高は、BT材料等、電子材料の販売数量増加が増収要因となりましたが、PCの販売価格下落や円高により相殺された結果、前年同期並みとなりました。

営業利益は、PCの販売価格下落、無機化学品の固定費の増加、BT材料での品質対応強化に伴うコスト増加に加え、円高等により減益となりました。

下段に、機能化学品における当第1四半期の営業利益の増減要因を、前年同期との比較で示しております。こちらも後ほどご参照願います。

機能化学品



単位:億円	2024年度 1Q実績	2025年度 1Q実績	増減
売上高	1,092	1,089	▲ 3
機能化学品	910	869	▲ 40
特殊機能材	182	219	+ 37
調整	▲0	▲ 0	▲ 0
営業利益	126	96	▲ 29
機能化学品	84	51	▲ 32
特殊機能材	41	44	+ 3
調整	0	0	▲ 0
経常利益	139	99	▲ 40
機能化学品	90	47	▲ 42
特殊機能材	49	52	+ 3
調整	0	0	▲ 0

※ 内訳は、主要製品群別セグメントを記載

三菱ガス化学株式会社

		2025年度1Q実績 (2024年度1Q実績比)	
機能化学品	無機化学品	➡	先端半導体向けのハイブリッドケミカルは、堅調に推移したが、顧客毎の需要動向には濃淡がある状況。加えて、生産能力増強に伴う減価償却費の増加と円高影響等により減収減益
	エンジニアリングプラスチック	➡	PCの販売価格下落と為替影響に加え、海外拠点での低価法評価損益の影響等により減収減益
	光学材料	➡	光学樹脂ポリマーの主用途であるスマートフォン向けの需要が堅調に推移し、前年同期並みの損益
特殊機能材	電子材料	➡	半導体パッケージ用 BT材料において、需要の回復に加え、一部原材料のタイト化や米国関税影響から顧客側で在庫確保を進める動きが顕著となり、増収となったものの、品質対応強化に伴うコスト増加等により小幅な増益に留まった
	生活衛生ソリューションズ (旧 脱酸素剤)	➡	脱酸素剤において輸出数量が減少したものの、今期から無機化学品より環境衛生薬品を移管した影響等により前年同期並みの損益

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 11

11ページでは、機能化学品の業績動向を、主要事業別に示しております。

無機化学品は、先端半導体向けのハイブリッドケミカルの販売は、堅調に推移しましたが顧客毎の需要動向に濃淡がある状況が継続しております。加えて、各生産拠点における生産能力増強に伴う減価償却費の増加と円高影響により減収減益となりました。

エンプラについては、PCの販売価格下落とタイの拠点ではパーツ高による為替影響が生じたことに加え、海外拠点での低価法評価損益の影響等により減収減益となりました。

光学材料は、光学樹脂ポリマーの主用途であるスマートフォン向けの需要が堅調に推移し前年同期並みの損益となりました。

電子材料は、半導体パッケージ用 BT材料において需要回復に加え、サプライチェーンにおいて、原材料のタイト化と、米国関税影響から顧客側で在庫確保を進める動きが顕著となり販売数量が増加し、増収となりました。一方、昨年同期から生じている当社グループ内での品質対応強化に伴うコスト増加により小幅な増益に留まりました。

1 | 2025年度 第1四半期実績 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 2025年度 業績予想

最後に、業績予想についてご説明します。

2025年度 業績予想



- 上期予想: 前回予想*を据え置き

- 下期予想・通期予想: 売上高を上方修正(+200億円)。各段階利益は、前回予想*を据え置き

※ 前回予想を据え置いた項目においても、事業毎、セグメント毎の見直しは実施

* 2025年5月12日公表

単位: 億円	2025年度上期			2025年度下期			2025年度通期		
	前回予想	今回予想	差異	前回予想	今回予想	差異	前回予想	今回予想	差異
売上高	3,600	3,600	-	3,700	3,900	+200	7,300	7,500	+200
営業利益	240	240	-	220	220	-	460	460	-
持分法利益	27	33	+5	47	40	▲7	75	73	▲1
経常利益	270	270	-	230	230	-	500	500	-
親会社株主に帰属する当期純利益	200	200	-	160	160	-	360	360	-

【2025年度上期】

・ BT材料は、好調な販売を維持する一方、メタノール市況の下落や、PC、MXDAおよび誘導品等において需要低迷・採算悪化を見込む

【2025年度下期】

・ 為替前提を円安に見直したことにより増収。一方、上期同様、PC、MXDAおよび誘導品での下振れに加え、BT材料での品質対応強化に伴うコスト増が継続する見込み

13ページをご覧ください。

2025年度の上期、下期、通期業績予想の概要を示しております。

2025年度上期予想は据え置きとしております。

BT材料は、好調な販売を維持する一方、メタノール市況の下落や、PC、MXDAおよび誘導品等において需要低迷・採算悪化を見込んでおります。

下期予想は為替前提を円安に見直したことにより売上高はプラス200億円の増収を想定しております。一方、上期同様、PC、MXDAおよび誘導品での下振れを見込むものの、円安で挽回するまでには至らず、また、下期においてもBT材料での品質対応強化に伴うコスト増が継続する見込みであるため、営業利益・経常利益・当期利益は前回予想を据え置きとしております。

なお、前回予想を据え置いた項目につきましても、個別の事業毎には見直しを実施しております。第2四半期の見通しと、下期業績のポイントにつきましては、この後のスライドにてご説明いたします。

2025年度 第2四半期の見通し(対第1四半期実績)



単位:億円	2025年度 1Q実績	2025年度 2Q予想	増 減	
			金額	%
売上高	1,779	1,820	+40	+2.3
営業利益	109	130	+20	+18.5
持分法利益	23	10	▲12	▲55.7
経常利益	138	131	▲6	▲4.8
親会社株主に帰属する四半期純利益	84	115	+31	+37.9

【グリーン・エネルギー&ケミカル(GEC)】

- メタノール:市況は335ドル/MTを予想(1Q 314ドル/MT)
- メタノール・アンモニア系化学品:需要は1Q並みで推移する想定。しかし、固定費の増加(定修)等により1Q比では減益の見込み
- MXDA・芳香族アルデヒド:緩やかながら中国・欧州での需要回復により、販売数量増加を見込む

【機能化学品】

- 無機化学品:エレケミ(半導体向け薬液)の販売は、堅調に推移すると見込まれるが、固定費増加(定修)等により減益を予想
- エンプラ(PC・POM):汎用PCの市況低迷は継続すると見込まれるが、海外拠点での低価法評価損益の改善等により増益を予想
- 光学樹脂ポリマー:スマートフォン向けの堅調な需要が継続する見込み
- BT材料:1Qに続き、好調な販売が継続し、1Q並みの損益を見込む

14ページは、第2四半期の営業利益の見通しについて、第1四半期からの変化を中心に示しております。

上段の表に記載の通り、売上高は増収、営業利益についても1Qの109億円に対して130億円の予想といたしました。その内訳を下段の囲みに記載しております。

メタノール市況は、335ドルを想定しており、第1四半期平均の314ドルから上昇する見通しです。

メタノール・アンモニア系化学品は、需要は1Q並みで推移する想定しております。しかし、固定費の増加(定修)等により1Q比では減益の見込みです。

MXDA・芳香族アルデヒドは、緩やかながら中国・欧州での需要回復により、販売数量増加を見込んでおります。

無機化学品のエレケミの販売は、堅調に推移すると見込まれますが、固定費増加(定修)等により減益を予想しております。

PC・POMなどのエンプラについて、汎用品の市況低迷は継続すると見込まれますが、海外拠点での低価法評価損益の改善等により増益を予想しております。

光学樹脂ポリマーは、スマートフォン向けの堅調な需要が継続する見通しです。

BT材料は、1Qに続き、好調な販売が継続し、1Q並みの損益を見込んでおります。

2025年度 下期業績予想のポイント

【グリーン・エネルギー&ケミカル(GEC)】

- メタノール:市況は345ドル/MTを予想(上期予想 324ドル/MT)
- メタノール・アンモニア系化学品:需要の回復を想定するも、固定費の増加(定修)等を見込む
- MXDA、芳香族アルデヒド:中国・欧米向けとも上期並みの販売を見込む
- エネルギー資源・環境:ヨウ素事業における固定費増加を見込む
- 例年同様、第4四半期に水島工場での定修を予定

【機能化学品】

- 無機化学品:エレケミは、各拠点において需要の回復が続く見通し
- エンプラ(PC・POM):汎用PCの市況低迷に加え、定修等による固定費負担が増加する見込み。
- 光学樹脂ポリマー:スマホカメラの高機能化トレンドを受け、好調な販売が続く見通し
- BT材料:上期上振れの反動減を想定。品質対応強化に伴うコストは上期比で減少する見込み

■為替前提(2Q以降):1ドル145円(前回予想より5円の円安)、1ユーロ165円(前回予想より5円の円安)
為替感応度(USD、概算):1円の円高(円安)で、営業利益5億円/年、経常利益5億円/年の減益(増益)

■原油価格前提(2Q以降):70ドル/bbl.(前回予想と同じ)
原油感応度(USD、概算):1ドル/bbl.の上昇(下落)で、3億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず

15ページでは、2025年度下期業績予想のポイントをお示しております。

はじめに、GECですが、メタノールについては、市況は上期よりやや高い、345ドルを想定しております。

MXDA、芳香族アルデヒドは、欧米向けの需要回復を想定するも、固定費の増加等を見込んでおります。

エネルギー資源・環境でのヨウ素事業は販売は堅調に推移するも、下期に固定費等のコスト増加を見込んでおります。

なお、例年同様、第4四半期に水島工場での定修を予定しております。

続いて、機能化学品ですが、

エレケミは、半導体市場の更なる回復に伴い、半導体向け薬液全般に需要の回復を予想しております。また、高機能メモリ向け需要などによる販売増も見込んでおります。

エンプラについて、下期は定修等による固定費負担増加や、市況の軟化等が懸念されております。

光学樹脂ポリマーは、スマホカメラの高機能化トレンド、スマホ新機種 of 作りこみ等を背景に、好調な販売が続く見通しです。

BT材料は、上期前倒し発注の反動減を想定しております。また、品質対応強化に伴うコストは減少する見込みです。

なお、2Q以降の為替前提は、1ドル145円、1ユーロ165円としており、いずれも前回予想から5円の円安見通しとしております。

Appendix

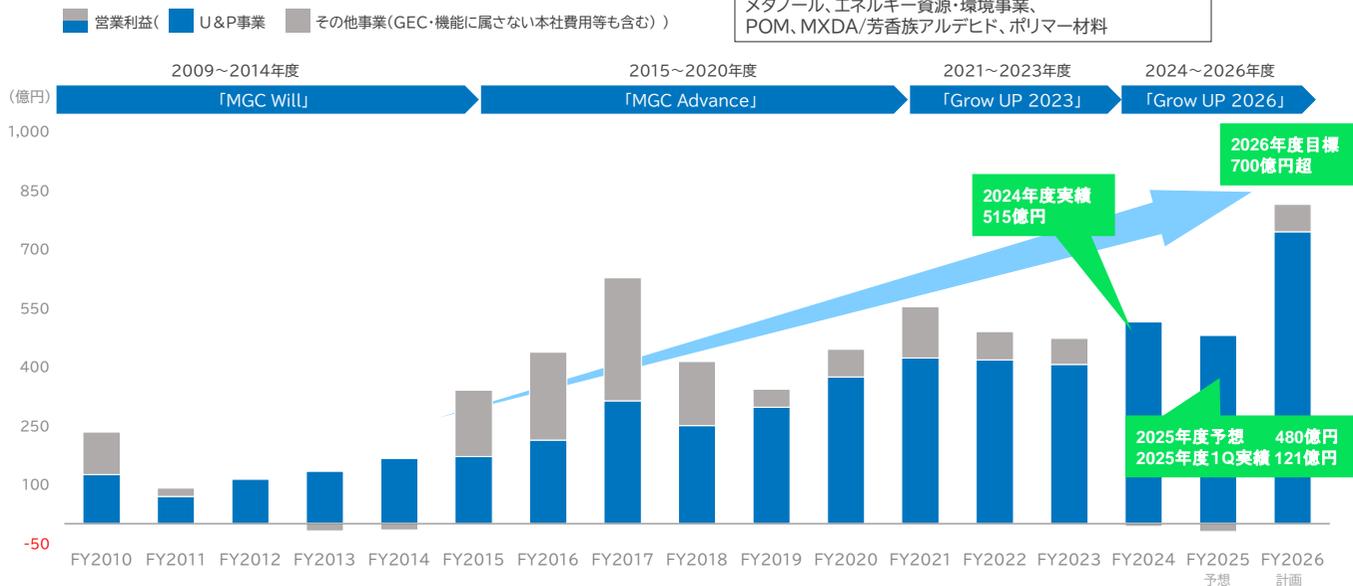
Uniqueness & Presence(U&P)事業の営業利益推移



成長ドライバーであるICT3事業を中心に、現中計期間に再拡大

U&P事業・中計「GrowUP2026」において経営資源を優先的に配分すべきと評価した以下の事業

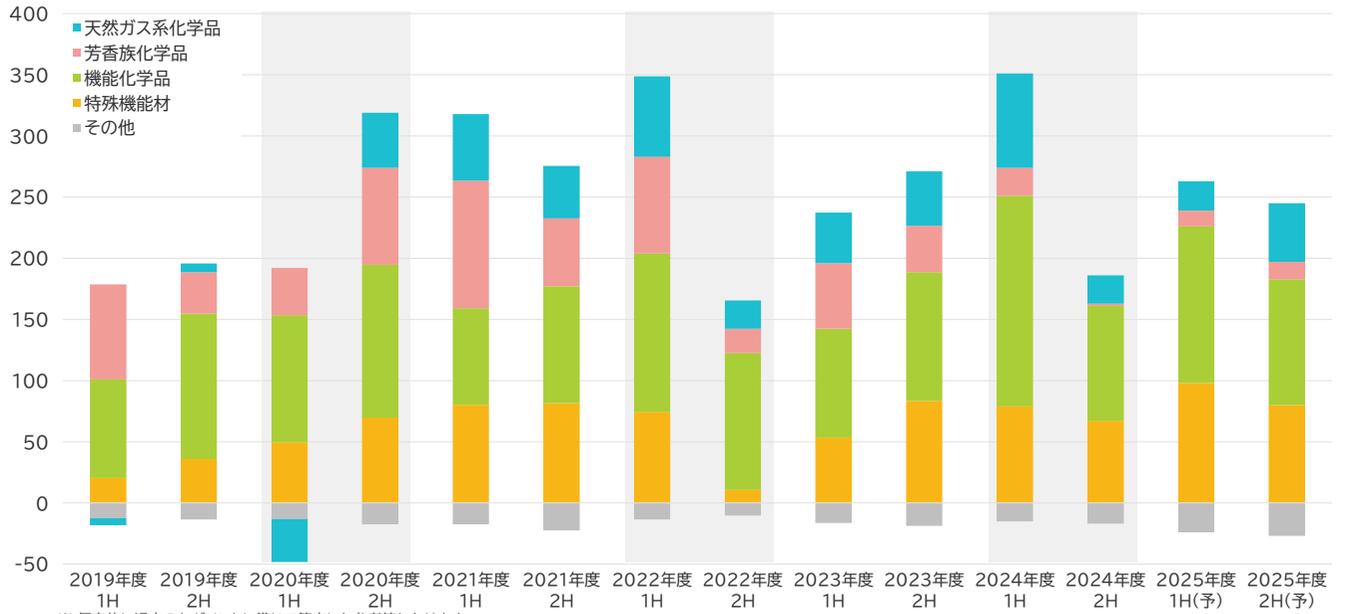
電子材料、無機化学品(EL薬品等)、光学材料、メタノール、エネルギー・資源・環境事業、POM、MXDA/芳香族アルデヒド、ポリマー材料



主要製品群別 営業利益推移



(億円)



※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

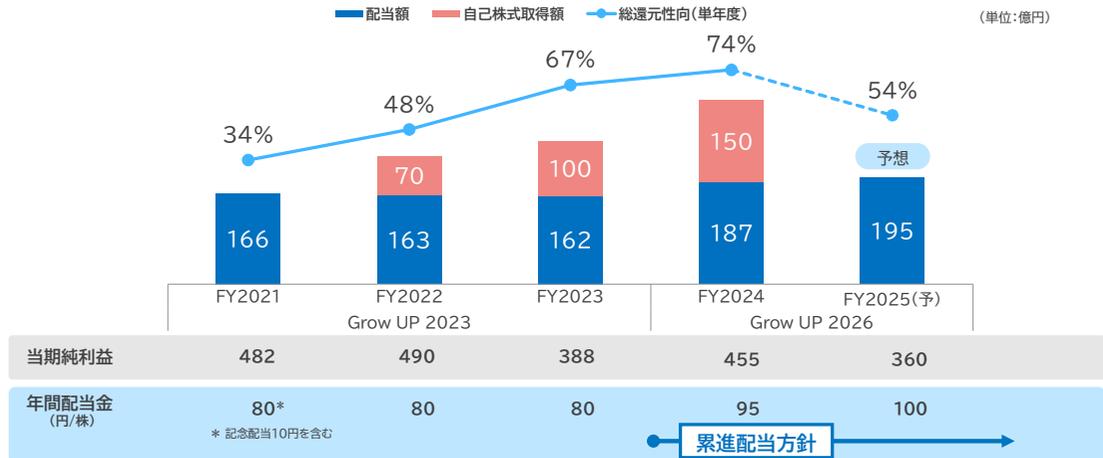
三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 18

資本政策/株主還元

- 現中計「Grow UP 2026」において、**累進配当方針の採用、総還元性向50%への引き上げ**等、株主還元を強化
- 更に2025年6月開催の経営概況説明会にて、**DOE(自己資本配当率)3%**を現中計期間中の目標値として追加設定

引き続きBSコントロールを実施しつつ、財務レバレッジを更に高め、
資本コストの低減および資本収益性の向上を目指す



セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2024年度実績			2025年度(前回予想)*			2025年度(今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,881	3,854	7,735	3,600	3,699	7,300	3,600	3,900	7,500
GEC	1,639	1,592	3,231	1,418	1,552	2,970	1,423	1,590	3,013
機能化学品	2,229	2,212	4,441	2,163	2,139	4,302	2,163	2,296	4,459
全社/調整	12	49	62	17	8	26	13	12	26
営業利益	337	170	508	240	220	460	240	220	460
GEC	101	26	127	52	61	114	38	63	102
機能化学品	252	161	413	213	185	399	226	183	410
全社/調整	▲15	▲16	▲32	▲26	▲27	▲53	▲25	▲27	▲52
経常利益	374	228	603	270	230	500	270	230	500
GEC	142	62	205	69	88	157	62	85	148
機能化学品	258	180	439	223	168	391	231	170	401
全社/調整	▲27	▲13	▲41	▲22	▲27	▲49	▲24	▲25	▲49

*2025年5月12日公表

セグメント別 2024年度及び2025年度 四半期別推移



単位:億円	2024年度実績				2025年度(実績/今回予想)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q(予)
売上高	1,881	2,000	1,950	1,904	1,779	1,820
GEC	783	855	804	787	682	741
機能化学品	1,092	1,136	1,134	1,078	1,089	1,074
全社/調整	4	8	10	38	8	5
営業利益	157	180	115	55	109	130
GEC	41	60	28	▲2	19	18
機能化学品	126	126	99	62	96	129
全社/調整	▲9	▲6	▲12	▲4	▲6	▲18
経常利益	179	194	164	64	138	131
GEC	45	97	41	21	39	23
機能化学品	139	119	126	54	99	131
全社/調整	▲5	▲22	▲2	▲10	▲0	▲24

主要製品群別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2024年度(実績)			2025年度(前回予想)*			2025年度(今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,881	3,854	7,735	3,600	3,699	7,300	3,600	3,900	7,500
天然ガス系化学品	1,195	1,134	2,329	1,047	1,136	2,184	1,057	1,168	2,226
芳香族化学品	449	463	912	373	418	792	369	424	793
機能化学品	1,866	1,840	3,706	1,754	1,724	3,479	1,722	1,865	3,588
特殊機能材	362	372	735	408	414	823	440	431	871
全社/調整	7	43	51	14	5	20	9	10	20
営業利益	337	170	508	240	220	460	240	220	460
天然ガス系化学品	77	23	100	27	37	65	24	48	73
芳香族化学品	23	2	26	25	23	48	13	14	28
機能化学品	172	94	266	133	103	236	128	103	231
特殊機能材	79	67	146	79	82	162	98	80	178
全社/調整	▲15	▲17	▲32	▲26	▲26	▲53	▲24	▲27	▲51
経常利益	374	228	603	270	230	500	270	230	500
天然ガス系化学品	110	44	155	36	64	101	38	70	109
芳香族化学品	32	17	49	32	24	56	23	14	38
機能化学品	168	110	279	137	85	222	135	91	226
特殊機能材	89	70	159	85	83	169	96	78	174
全社/調整	▲26	▲14	▲41	▲22	▲27	▲49	▲24	▲25	▲49

※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

*2025年5月12日公表

主要製品群別 2024年度及び2025年度 四半期別推移



単位:億円	2024年度実績				2025年度(実績/今回予想)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q(予)
売上高	1,881	2,000	1,950	1,904	1,779	1,820
天然ガス系化学品	565	629	552	582	498	559
芳香族化学品	220	228	254	209	185	184
機能化学品	910	956	949	890	869	853
特殊機能材	182	179	184	187	219	220
全社/調整	1	5	9	34	6	3
営業利益	157	180	115	55	109	130
天然ガス系化学品	27	49	▲0	24	12	11
芳香族化学品	13	10	29	▲27	6	6
機能化学品	84	88	66	28	51	76
特殊機能材	41	38	33	33	44	53
全社/調整	▲9	▲6	▲13	▲4	▲6	▲18
経常利益	179	194	164	64	138	131
天然ガス系化学品	26	83	▲5	50	30	8
芳香族化学品	17	14	46	▲29	8	14
機能化学品	90	78	89	20	47	88
特殊機能材	49	40	36	33	52	43
全社/調整	▲4	▲22	▲3	▲10	▲0	▲24

※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

2025年度 第1四半期 貸借対照表



単位:億円	2025年3月末	2025年6月末	増 減
流動資産	4,602	4,502	▲ 100
現預金	682	769	+ 86
売掛債権	1,578	1,477	▲ 100
棚卸資産	2,075	1,992	▲ 82
その他	266	262	▲ 3
固定資産	6,594	6,638	+ 44
有形固定資産	3,665	3,722	+ 56
無形固定資産	249	247	▲ 2
投資その他の資産	2,678	2,668	▲ 9
資産合計	11,196	11,140	▲ 56

単位:億円	2025年3月末	2025年6月末	増 減
負債	4,223	4,206	▲ 16
買掛債務	1,030	790	▲ 239
有利子負債	2,139	2,459	+ 320
その他	1,052	955	▲ 96
純資産	6,973	6,934	▲ 39
株主資本	6,007	5,994	▲ 13
その他包括利益累計額	674	637	▲ 36
非支配株主持分	291	302	+ 10
負債・純資産合計	11,196	11,140	▲ 56

各種指標 (1)



単位:億円	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度 (予)
設備投資額	350	309	392	423	402	547	646	817	887	870
[1Q]	[56]	[61]	[91]	[115]	[87]	[115]	[153]	[183]	[177]	[162]
減価償却費	256	270	274	295	306	319	335	363	346	390
[1Q]	[61]	[64]	[67]	[71]	[75]	[78]	[79]	[91]	[82]	[92]
研究開発費	192	189	186	196	199	210	235	256	261	295
[1Q]	[48]	[45]	[45]	[45]	[47]	[49]	[55]	[62]	[62]	[69]
年度末人員(人)	8,034	8,009	8,276	8,954	8,998	9,888	10,050	7,918	8,146	8,290
EBITDA*1	894	1,088	976	616	817	1,070	1,050	849	973	923
U&P事業 営業利益	213	314	250	297	374	423	418	406	515	480
ROA(総資産経常利益率)(%)	8.4	10.6	8.7	3.9	6.2	8.4	7.1	4.4	5.5	4.4
ROE(自己資本当期利益率)(%)	12.0	13.6	11.3	4.3	7.1	8.8	8.3	6.1	6.9	5.4
ROIC(投下資本利益率)*2(%)	9.6	12.1	9.5	3.6	6.2	7.4	6.4	3.3	6.4	4.2
売上高営業利益率(%)	7.9	9.9	6.4	5.6	7.5	7.8	6.3	5.8	6.6	6.1
一株当たり当期純利益 (円/株)	221.83	281.39	257.46	100.50	173.41	232.15	239.08	190.97	228.93	184.87
一株当たり配当金**4(円/株)	38.00	59.00	70.00	70.00	70.00	80.00*3	80.00	80.00	95.00	100.00
[うち中間配当]	[16.00]	[24.00]	[35.00]	[35.00]	[35.00]	[45.00*3]	[40.00]	[40.00]	[45.00]	[50.00]
総還元性向 (%)	30.1	32.5	27.2	111.4	40.4	34.5	47.9	67.5	74.1	54.1

*1 EBITDA=経常利益+減価償却費+支払利息 *2 ROIC=(営業利益-法人税等+持分法損益)/投下資本 *3 記念配当10円を含む

*4 当社は2016年10月1日に株式併合(2株→1株)を実施しております。2016年度の一株当たり当期純利益および配当金については、当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しております。

各種指標 (2)



	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期予想	下期予想
為替(JPY/USD)	110	115	134	137	141	148	153	152	145	145
為替(JPY/EUR)	131	130	139	143	153	160	166	162	164	165
原油価格(Dubai) (USD/bbl.)	69	87	102	83	82	82	82	75	68	70
メタノール (USD/MT) アジアスポット平均価格	370	428	375	351	297	324	333	335	324	345
原料キシレン(USD/MT)	780	875	1,105	925	960	910	885	750	710	725
ビスフェノールA (USD/MT)*	2,750 ~3,700	2,100 ~3,150	1,450 ~2,200	1,250 ~1,700	1,150 ~1,400	1,250 ~1,350	1,250 ~1,350	1,200 ~1,350	1,100 ~1,250	1,100 ~1,200
ポリカーボネート (USD/MT)*	3,100 ~4,050	2,650 ~3,650	1,950 ~2,900	1,800 ~2,200	1,650 ~1,900	1,700 ~1,900	1,750 ~1,900	1,600 ~1,800	1,500 ~1,650	1,500 ~1,600

* 期間中の最小値および最大値を記載

感応度(概算)

為替(USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益5億円/年、経常利益5億円/年の減益(増益)
 為替(EUR) : 1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)
 原油(Dubai) : \$ 1/bbl.の上昇(下落)で、3億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず
 メタノール : メタノール市況 \$ 1/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

各報告セグメントの主要製品



報告セグメント	主要製品群	主要製品(2024年度まで)	主要製品(2025年度以降)
グリーン・エネルギー &ケミカル	天然ガス系 化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・メタノール ・メタノール/アンモニア系化学品(アンモニア・アミン類、MMA系製品、ホルマリン・ポリオール系製品、等) ・エネルギー資源・環境事業 	変更なし
	芳香族 化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・MXDA、芳香族アルデヒド、ポリマー材料(MXナイロン等) ・キシレン分離/誘導品(メタキシレン、高純度イソフタル酸(PIA)等) 	変更なし
機能化学品	機能化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・無機化学品(EL薬品(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル)、過酸化水素等) ・エンジニアリングプラスチック(ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等) ・光学材料(光学樹脂ポリマー、超高屈折率レンズモノマー等) 	変更なし*
	特殊機能材	<ul style="list-style-type: none"> ・電子材料(半導体パッケージ用BT材料等) ・脱酸素剤(エージレス®等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子材料(半導体パッケージ用BT材料等) ・生活衛生ソリューションズ製品* (脱酸素剤:エージレス®等) (環境衛生関連製品群:ダイヤパワー等)

* 2025年4月の生活衛生ソリューションズ事業部の設立に伴い、無機化学品のうち環境衛生関連製品群(医療機器洗浄、飲料容器殺菌、公害対策薬剤)は特殊機能材の主要製品へ移動しました。

- 2025年度第2四半期 決算発表
2025年11月10日(月) 15:30
- 2025年度第2四半期 アナリスト・機関投資家向け 決算説明会
2025年11月10日(月) 時間未定

※上記予定は都合により、予告なく変更となる可能性があります。

見直しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社
CSR・IR部 IRグループ

TEL 03-3283-5041

URL <https://www.mgc.co.jp/>



IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。

